

平成 24 年 10 月 31 日

教職員のメンタルヘルス対策検討会議

座長 吉川 武彦 様

全国連合小学校長会長 露木 昌仙

「教職員のメンタルヘルス対策検討会議の中間まとめ」についての意見

教職員のメンタルヘルスにつきましては、現在、深刻な状況にあることから貴検討会議において専門的な見地から今後の取組について検討した結果を中間まとめとしてとりまとめられたことに対しまして敬意を表します。

全国連合小学校長会でも、精神疾患により休職している教員が依然として 5,000 名を超え高水準にあること、新規採用教員で条件付採用期間中に病気により離職した教職員の 9 割以上が精神疾患によるものなどメンタルヘルス対策の充実・推進を図ることが必要であると受け止めております。

さらに、メンタルヘルス不調により休職から復職した教職員が再度休職となる場合もあることから、再度の休職とならないような対策を講じることも必要であると考えております。

つきましては、全国連合小学校長会としての意見を下記の通り取りまとめましたので、今後の議論において、本会の意見が反映されるよう要望するものであります。

記

- 1 教職員のメンタルヘルス不調の背景等を十分に分析し把握していただきたい。
○これまで文部科学省が行ってきた調査結果にもある通り教職員は、授業時間以外にも教材準備や保護者対応、事務的対応などのために多忙感があります。学校への人的措置の状況等も踏まえメンタルヘルスについての課題をよりの確に分析、把握していただきたい。
- 2 予防的な取組が行われにくい状況について分析し課題を把握していただきたい。
○メンタルヘルスに関する相談窓口や病院等を指定した相談体制が充実してきています。しかし、学校における人的措置が十分でないことからそれらの相談機関への通所、通院を戸惑う状況があります。早期の専門的な診断等が必要なことから人的な措置の状況を含めた分析と課題を把握していただきたい。

3 学校を取り巻く状況、教員の勤務状況などについて関係医療機関、相談員や医師等の理解の状況を分析し把握していただきたい。

○関係医療機関、相談員や医師等の学校の状況についての認識の不十分さから病気休暇の取得や休職、復職への判断が校長の考えと違うことがあります。そのために例えば医師等の判断で復職した後、再度の休職の事態となる場合があります。教員の勤務や学校を取り巻く状況などについての医師等の理解について分析し把握していただきたい。

4 校長の意見を重視するメンタルヘルス対策の充実・推進を図っていただきたい。

○様々な状況がある中で各校長は学校を経営しております。経営判断は、児童、保護者、教職員組織など多くの要因を総合的に考え行っています。この校長の考えを重視したメンタルヘルス対策の充実・推進を図っていただきたい。